1日　月曜

列王Ⅱ

6:1 預言者の仲間たちがエリシャに、「ご覧のとおり、私たちがあなたと一緒に住んでいるこの場所は狭くなりましたので、
6:2 ヨルダン川に行きましょう。そこから各自一本ずつ梁にする木を切り出して、そこに私たちの住む場所を作りましょう」と言うと、エリシャは「行きなさい」と言った。
6:3 すると一人が、「どうか、ぜひ、しもべたちと一緒に来てください」と言ったので、エリシャは「では、私も行こう」と言って、
6:4 彼らと一緒に出かけた。彼らはヨルダン川に着くと、木を切り倒した。
6:5 一人が梁にする木を切り倒しているとき、斧の頭が水の中に落ちてしまった。彼は叫んだ。「ああ、主よ、あれは借り物です。」
6:6 神の人は言った。「どこに落ちたのか。」彼がその場所を示すと、エリシャは一本の枝を切ってそこに投げ込み、斧の頭を浮かばせた。
6:7 彼が「それを拾い上げなさい」と言ったので、その人は手を伸ばして、それを取り上げた。
6:8 さて、アラムの王がイスラエルと戦っていたとき、彼は家来たちと相談して言った。「これこれの場所に陣を敷こう。」
6:9 そのとき、神の人はイスラエルの王のもとに人を遣わして言った。「あの場所を通らないように注意しなさい。あそこにはアラム人が下って来ますから。」
6:10 イスラエルの王は、神の人が告げたその場所に人を遣わした。神の人が警告すると、王はそこを警戒した。このようなことは一度や二度ではなかった。

Bible Reference 聖書の記述

6:11 このことで、アラムの王の心は激しく動揺した。彼は家来たちを呼んで言った。「われわれのうちのだれがイスラエルの王と通じているのか、おまえたちは私に告げないのか。」
6:12 すると家来の一人が言った。「いいえ、わが主、王よ。イスラエルにいる預言者エリシャが、あなたが寝室の中で語られることばまでもイスラエルの王に告げているのです。」
6:13 王は言った。「行って、彼がどこにいるかを突き止めよ。人を遣わして、彼を捕まえよう。」そのうちに、「今、彼はドタンにいる」という知らせが王にもたらされた。
6:14 そこで、王は馬と戦車と大軍をそこに送った。彼らは夜のうちに来て、その町を包囲した。

列王記は旧約の預言書に位置します。律法に従うなら祝福と救い、従わないなら呪いと滅びという主の約束に対して、人々がどのように行動してどのような結果をもたらすのか、それについて主からのことばを預かって、伝えるのが預言者です。
その預言者は現実の中で生活し、主に従い、互いに支え合い、活動したのだと分かります。エリシャは独善的に批判するような人ではなく、弟子たちと作業を共にし、弟子の困った時に助け、また「借り物」に対する責任を果たすような社会性をも持っていました。
「枝」が奇跡のわざなのか、斧の穴にうまくはまって浮かばせることができたのか、定かではありません。ただしどのような神の奇跡も、ある人にとっては主のわざであり、別の人にとっては偶然のできごとと思うでしょう。それは主との個人的な交わりによります。しかし、直接であっても偶然であっても、その背後には全能の主が働いて、全てを導いておられることを忘れないようにしましょう。
主がエリシャに働いておられたことは確かで、それゆえアラムの王は、スパイがいると勘違いしたほどでした。あらゆる場面で主の全能を認め、信頼し、感謝し、そして従いましょう。現実の中で、生きた主を体験していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？